

届け 世界の果てまでも

令和2年 6月12日

No. 11

文責 校長 飯久保一男

しつけ（躾）について③ 家庭教育 ⇄ 学校教育

学校（教職員）の多忙化，働き方改革が注目され，学校は「ブラック企業」などともいわれてしまいます。もし，授業をすることだけを考えると仕事ができたら，私たちの仕事はかなり精選されるはずで。多忙という中には，授業をすること，それに関わる準備をすること以外の仕事が大きく影響しているのです。

海外の学校の教職員の仕事の状況はどうなっているのだろうかと調べてみましたら，ドイツで子どもを育ててきたお母さんが，日本に来て，日本の学校について感じたことをインターネット上にコラムとしてあげていました。



小4の保護者会で，先生から学習内容や学校行事についての説明がありました。その中で気になったのは，学校で学ぶことの中に教科の学習だけでなく，生活指導の話があったことでした。例えば「自分からあいさつしよう」「時間を意識して行動しよう」などの態度が身に付くよう指導しているという話です。これらは学校で学ぶことなのでしょう。私はこの方針にとっても違和感を覚えました。日本の保護者は，学習面と「しつけ」の両方を学校で指導してもらうことに何の抵抗もないようでした。むしろそれを期待しているようにも見受けられました。ドイツでは子どもに生活上のルールを教えるのは親の仕事とされ，親が子どもに見本を示したり，他人への対応の仕方などを教えたりすることができなければ，親の役目はいったいどこにあるのか分からない，と考えられています。

コンビニで子どもが約3時間，4冊の雑誌を立ち読みして，何も買わずに帰ろうとしたとき店員に呼び止められ，その迷惑行為が学校に通報されました。先生はその子どもを指導し，家庭に連絡します。いかにも日本的です。もしドイツで同じように店員が学校に通報したら，学校は「学校に関わる問題ではない」とあっさり電話を切るでしょう。子どもの生活態度の責任は親にあるとはっきりしているからです。



日本の学校は，集団生活のルールも指導します。ドイツでは，学校は学問の場としてのみ認識されているので，集団生活のルールを指導することには関心がありません。ドイツは多民族国家で，「精神的に強くあれ」ということが指導されます。「精神的に強い」というのは相手よりも強くなれということではなく，「自分の意見をはっきりと表明すること。他人の意見も聞くこと。」「悪口を言いたいのなら，本人の前で言うこと。」というように，自分の意見を持ち，発言することが重要であると先生は子どもに口酸っぱく言うのです。そのため，ドイツの子どもたちは愚痴を言うことがあまりありません。愚痴を言うと「本人に直接言いなよ」と逆に諭されてしまいます。

また，ドイツの公立学校では「みんなでやろう」「みんなががんばろう」といったスローガンを掲げることがありません。日本では，運動会のような行事を通して全体で行動したり，グループをつくって仲間意識をもたせたりすることがよくあります。ドイツではそういった風潮がまったくといていいほどありません。ドイツで子どもを育てていると，当時はあまり乗り気でもなかった日本の学校行事が，懐かしく，うらやましくなることがあるほどです。

日本の教育がドイツの教育に劣っているとは思いません。教科指導だけでなく、社会のルールをも学ぶ生徒指導・生活指導をすることは必要なことです。逆にそれを指導する日本の教育は優れているともいえます。



日本の新型コロナウイルス感染症対策が「成功しているのは奇跡のようだ」と海外では報道されているようですが、日本では、教育による生徒指導・生活指導の積み重ねにより、法的拘束力をもたない「自粛のお願い」であっても、人々がそれに従い、自粛をした結果が成功につながったと私は思っています。

※画像 … 藤子・F・不二雄ミュージアム、藤子・F・不二雄プロ「STAYHOME プロジェクト」より引用

掃除の指導や給食の指導もとても大切なことです。しかし、多忙化という視点で考えますと…

掃除…世界的には子どもが学校を掃除しない国がほとんどです。自分たちの生活の場を自分たちで掃除することは絶対必要ですし、自分で心を磨くことにもなります。日本に習い、子どもたちが掃除をする国も増えてきているとのこと。しかし、それがゆえに教職員の仕事は増えることとなります…。

給食…給食があることは家庭の大きな助けになっていると思います。臨時休業中、保護者の皆さんの子どもたちの昼食の心配は大変だったろうと想像します。先週の月曜日までは給食ではなく弁当でした。弁当だと昼の時間に余裕があり、教職員にとっては給食がある日よりもやるのが少なく、余裕が生まれることは確かなことです。特に感染症への対策が必要な現在、給食への教職員の気遣いは大変なものです。

日本の学校（教職員）の役割は多岐にわたります。それが「ブラック」といわれる所以です。

小笠原小学校の教職員が、子どもたちにとって有意義なことに、子どもたちのために、時間をかけられるようにしたいと取り組んでいるのですが…。

ぼやきになってしまうかもしれませんが…。

その1 妻から聞いた話です。スーパーマーケットの入口で、その店で買ったお菓子を食べていた小学生たちが、その袋やごみを散らかしたまま帰ろうとしたところ、掃除担当のシルバー人材と思われる方が、その子どもたちを叱っていたという話でした。いいオジサンじゃん、最近、人の子どもを叱れない大人が多いんだよな、と妻の話を聞いていましたが、話の続きがありました。子どもを叱った後、オジサンは「まったく、最近の学校は、ごみの捨て方も教えないのか！」と言っていたということでした。**む…。**



ごみの捨て方を教えるのは学校？ まあこういう苦情が学校に来ることはあるよなあ…。

その2 私は、残念ながら1・2年生の担任をしたことはありませんが、3年生を受けもったことはあります。3年生を受けもった初日の帰りの時間、男の子が「先生、靴の紐を結んで」と言ってきました。**むむ…。**驚きとともに「3年生なら、自分でやりなよ。」と言って、やってあげませんでした。その子は女の子に結んでもらっていましたが…。



靴の紐を結んでやるのは、教員の仕事？ その前に、自分で結べない靴を学校に履かせてくる？

その3 学級懇談会で、ある母親から「ウチの子は箸の持ち方がおかしいのですが、給食のときに先生から指導してもらえませんか。」という要望が出ました。**むむむむ…。**他の母親から「それは家庭で教えることですよ。先生の仕事は勉強を教えることです。」という話が出て、この話は終わりになりました。



後者のお母さん大好き！ 小笠原流礼法の授業でも箸の持ち方を扱いますが、本来それを教えるのは…。